

令和4年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：准教授

氏名： 山 添 謙

<p>研究課題名</p>	<p>地球温暖化の進展に伴う都市の気候環境変化に関する研究～日本の諸都市における水蒸気量経年変化</p>
<p>研究目的及び研究概要</p>	<p>グローバル・スケールの気候変化である地球温暖化の影響は、地球上のそれぞれの場所で異なる。一方、地球温暖化は都市生活者が指向している「便利で快適な生活」がその根本の原因にあるといわれている。そして、「便利で快適な生活」を支えるために施される都市形状の変化（土地被覆の改変、建築物の高層化や地下化）や著しいエネルギー消費が、ヒートアイランドに代表される都市特有の気候を出現させている。</p> <p>本研究では、温帯に属している日本の人口規模が大きい都市を対象に、水蒸気量の実態について明らかにする。都市ごとに異なる気候因子を考慮し、地形条件や局地風との関係も考慮し、東京との比較を行う。</p> <p>人間の体感温度は、主に気温と相対湿度によって決定される。気温については、ヒートアイランド研究の中で多くの成果が挙げられているが、湿度やその原因となる水蒸気量については十分に解明されているとは言えない。そこで、日本の大都市を対象にして水蒸気量の日変化について類型化し、それらの出現状況について明らかにする。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>近年、地球規模の気候変化に伴い、自然季節の進行に変化が起きている。とくに、夏季の長期化及び冬季の短期化が顕著であり、春季および秋季の移動が起きていることが指摘されている。</p> <p>東京の中心に位置する東京管区気象台（気象庁）の観測露場は、2014年12月に北の丸公園に移転した。この移転に伴い、気温などの観測要素のいくつかは、「統計的切断」が認められ、長期的な変化傾向を調査する場合には注意を要する。</p> <p>今年度は、気象庁による移転前後の2つの露場の比較観測資料をはじめ、移転前後の資料を基に水蒸気量に与える移転の影響を評価することを目的に、移転前後のそれぞれ10年間を対象に東京管区気象台及び大気汚染常時観測システムの観測点資料を収集し、データベース化を進めた。</p> <p>解析の結果はいまだ得られていないが、長期の推移を明らかにする場合には、接続のための統計的処理が必要となろう。</p>